

平成24年6月10日  
今週のベストショット



雁レク4番球場 三友クラブ 対 三苦三球会戦  
息詰まる投手戦を完封で制した三苦三球会エース吉留投手。  
(写真：ソルトベ이스ターズ 田中裕次郎)

青松園A

三苦フレンズ (0勝5敗1分) 1 0 2 0 0 0 0 3 塔本●ー佐藤

奈多クラブ (2勝3敗) 1 1 3 1 0 0 X 6 吉田○ー高瀬

HR：高瀬 (奈多ク) 3BH：生野 (猛) (三苦フ) 2BH：佐藤 (三苦フ)

◆ “RUN! RUN! RUN!” & “OUT! OUT! OUT!”

一回表三苦フレンズは、先頭の生野 (猛) 選手がレフトへの長打で三塁を狙う。その生野選手の俊足を意識してか中継が乱れ、三塁打+エラーで早くもフレンズ先制! 対する奈多クラブは先頭安部選手のヒットにエラーも絡み三塁へ。早くも訪れた同点のチャンスに3番今林 (健) 選手がきっちりセンターへ弾き返し、試合は振り出しに。二回表を三者凡退に抑え良い流れの奈多クラブは、一死一三塁のチャンスに9番今林 (常) 選手にタイムリーが生まれ逆転に成功! 逆転を許したフレンズも負けてはいない。三回表、取られたら取り返す! と二死ながら満塁で4番佐藤選手の当たりはレフトへ。ランナー2人が生還し、3対2と再びひっくり返す。リードを許した奈多クラブは三回裏、二死からランナー2人を置いて8番高瀬選手の値千金の左越え3ランにチームの盛り上がりも最高潮! 奈多クラブ先発の吉田投手は、四回以降ヒット2本に抑え、再び逆転を許すことなく、七回を投げ切り白熱したシーソーゲームを見事勝利! 余談ですが、五回裏の奈多クラブの攻撃で無死満塁と追加点のチャンスでしたが、ホームゲッターとランダウンプレーでトリプルプレーとなり、4人で攻撃終了という珍しいことも起きた試合でした。(記事：雁の巣ライナーズ 池内礼信、写真：鳥越康介)



七回を投げ抜いた奈多クラブ先発吉田投手。



なかなか勝ち星に恵まれないフレンズ塔本投手。



先制のホームを踏む三苦フレンズ生野選手。



3ランを放ちハイタッチで迎えられる奈多クラブ高瀬選手(真ん中)。

### 青松園B

塩浜ジャガーズ (3勝3敗0分) 0 0 0 1 0 1 内田●、立石一竹尾

新町パイレーツ (4勝2敗0分) 3 5 3 0 X 1 1 吉田○一桐島

**3BH** : 山野井 (新町パ) **2BH** : 白岩 X 2 (新町パ)

ジャガーズは一回表、先頭の岩崎選手がヒットで出塁し、続く稲富選手も右中間にヒットを放ち二塁を狙うが好返球でアウトになる。それでも一死三塁で先制のチャンスだったが、3番4番と倒れチャンスをモノにできなかった。逆にパイレーツは一回裏に1番牟田選手が四球、2番升井選手の送りバントで牟田選手が一気に三塁まで進み3番白岩選手のサード強襲ヒットで先制。更に4番5番が死四球で出塁し7番吉田選手のライト前ヒットで2点を追加。二回裏パイレーツは、ジャガーズのエラーで出たランナーを白岩、山野井、八坂選手のタイムリーヒットでさらに5点を追加。ジャガーズはパイレーツの三回の攻撃から流れを変えるためピッチャーを立石選手に変えたが、制球が定まらず5死四球とワイルドピッチで3点を献上。意地を見せたいジャガーズは四回表に4番内田選手がヒット、続く佐藤選手のショート内野安打にパイレーツ牟田遊撃手の悪送球で1点を返す。続く五回裏にもチャンスは作ったが得点できずパイレーツがコールド勝ちした。

(記事：新町ウインズ 桐島司、写真：早田主大)



1失点と好投したパイレーツ吉田投手。



一回裏、先制タイムリーを放つパイレーツ白岩選手。



三塁打を放ったパイレーツ山野井選手。



バントを警戒するジャガーズ稲富三塁手。



五回表、ジャガーズ田中選手がホームを狙うもタッチアウト。



三遊間のあたりに追いつく牟田遊撃手。



ゴロをさばくジャガーズ稗田一塁手。



リリースするジャガーズ立石選手。

### 雁レク4番球場

三友クラブ (1勝5敗0分) 0 0 0 0 0 0 0 足達●一駄原

三苦三球会 (3勝0敗2分) 0 4 0 0 0 X 4 吉留○一藤澤

3BH : 吉留 (三球会)

初回、三友クラブは一死から入口選手が内野安打で出塁すると、続く中嶋選手の死球と清水選手のピッチャー強襲ヒットで満塁とするが、後続が倒れ無得点。三球会も一死からデッドボールと相手のミスにより一三塁のチャンスを作るが後続が倒れこちらも無得点。三球会は二回裏、吉留選手が四球を選ぶと相手ミスとデッドボールで無死満塁とする。ここで9番浜口選手がセンター超えのヒットを放ち2点先制。さらに渡辺選手の犠牲フライと捕手悪送球の間に2点を追加し4点を奪う。その後は、三友クラブ足達投手は立ち直り、三球会吉留投手も安定したピッチングを展開しそのまま試合終了。お互いヒット3本ずつと投手戦では互角であったが、二回のワンチャンスをものにした三球会が見事勝利を収めた。（記事、写真：ソルトベイスターズ 田中裕次郎）



一回表、必死の突入も得点ならず三友クラブ入口選手。



一回裏、盗塁を決める三球会小倉選手。



先制のホームインをする三球会吉留選手。



二回裏、先制打を放った三球会浜口選手。



決死のジャンプも及ばず三友クラブ杉山三塁手。



軽快な守備の三球会堺和彦遊撃手。

### 雁レク6番球場

ブルーマーリンズ（0勝5敗） 0 0 0 0 1 0 0 1  
 レッドサンデーズ（2勝4敗） 2 0 0 0 0 2 X 4

綱脇●一尾田  
 土田○、島村一三船

**HR**：三船（レッド）

一回裏レッドサンデーズは、3番三船選手の2ランHRで幸先よく先制。追加点が欲しいレッドサンデーズは、四回裏二死二三塁のチャンスであったが、土師選手の強烈な打球をブルーマーリンズ末松三塁手のファインプレーで追加点を阻止した。その直後の五回表、先ほど好守をみせた末松選手が四球を選び、盗塁、内野手の守備の乱れから待望の1点を獲得した。六回裏1点差に追いつかれたレッドサンデーズは、四球と守備の乱れから2点を追加しダメ押しとなった。試合の流れはブルーマーリンズが押していたが決定打に欠き、チャンスをものにしたレッドサンデーズの勝利であった。残念ながらまたしても初勝利を逃したブルーマーリンズであった。

（記事、写真：三苦ホーネッツ 永島貴文）



ホームランで祝福を受けるレッドサンデーズ三船選手。



粘り強い投球のレッドサンデーズ土田投手。



四回裏ピンチを救ったブルーマーリンズ末松選手。



五回表、悪送球を誘うブルーマーリンズ末松選手。



相手守備の乱れでホームインしたブルーマーリンズ末松選手。



先制HRを放ち勝利したレッドサンデーズ三船監督。  
「たまたまです。場所がよかった。」

## 第8週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

梅雨入り前の10日は4試合が行われました。

青松園Aの三苦フレンズ対奈多クラブ戦は、息詰まるシーソーゲームを6-3で奈多クラブが制しました。お互い6安打ずつでしたが、長打の出るタイミングが勝負を分けた感があります。初回先頭打者のフレンズ生野選手の3塁打（+エラーで先制点）に対し、三回裏の奈多クラブ高瀬選手は逆転の3ラン。勢いに乗ったところで奈多クラブ五回の珍しいトリプルプレーはご愛嬌といったところでしょうか？

青松園Bの塩浜ジャガーズ対新町パイレーツ戦は今季躍進が期待されるジャガーズを好調パイレーツ打線が15名登録中14名出場で粉砕し、11-1でコールド勝ち。パイレーツ三番の白岩選手は先制打を放つなど今季の好調さを伺わせます。

雁レク4の三友クラブ対三苦三球会戦は、連勝を狙う三友クラブ打線を三球会吉留投手が3安打完封。三友クラブ足立投手も3安打に抑えていただけに、初回のチャンスをものに出来ていれば逆の結果になっていたかも。前回のBマーリンズ戦では自ら招いた無死満塁を切り抜けていましたが、三球会相手ではそうは問屋が卸してくれず、9番浜口選手の値千金のタイムリーに屈し、4-0という結果に。

雁レク6のブルーマーリンズ対レッドサンデーズ戦は、初回レッド三船監督兼捕手が先制2ランを放ち、それが決勝点に。若いレッド土田投手を巧みにリードし、最終回は初登板の島村選手を起用してBマーリンズ打線を1失点に抑えるなど、打撃に守備に采配に大活躍。Bマーリンズもレッドを上回る7安打を放ちながら、ここ2試合はあと一歩だけにその得点力不足が課題ですね。

さあ梅雨入り宣言も出て、今後日程消化もままならない状況が予想されます。怪しい天気でも強行される場合がありますので、取り敢えず試合をやるつもりで準備をしましょう。

6月17日は4試合です。

	一塁側		三塁側		審判
青松園A	レッドサンデーズ	対	奈多サンデーズ		三友クラブ
青松園B	ソルトベ이스ターズ	対	三苦ホーネッツ		三苦フレンズ
奈多グラ	三苦三球会	対	ブルーマーリンズ		新町パイレーツ
雁レク7	新町ウインズ	対	雁ノ巣ライナーズ		奈多フェニックス（支払い